

地理情報から読み



責任編集 熊倉和歌子

Googleマップ、グルメサイト、Pokémon GO。わたしたちは、地理情報システム (Geographic Information System, GIS) を利用したさまざまなサービスを日常的に利用している。インターネットの高速化とスマートフォンの普及が、GIS利用の範囲を押し広げ、生活に不可欠なもののひとつになるうとしている。このような新しい技術の進歩は、日常生活だけでなく、歴史研究にも大きな変化をもたらしている。中東においては、紙製の測量地図を入手するのが難しい国が少なくない

が、Googleマップはそのような国の衛星画像を見ることを可能にしてくれる。このような状況を背景に、中東を対象とした歴史研究においても、GISを利用した研究やデータベース構築のプロジェクトなどが少しずつ見られるようになってきている。

本特集では、地理情報を利用した中東の歴史に関する4つの研究の展望を紹介し、地理情報から読み解く歴史研究のアイデアと発展の可能性を提示したい。加藤は、エジプト中部のファイユーム盆地が、長い歴史のなかで歩んだ発展と衰退の経路を描き、前近代と近代との接続をはかる。そこでは、地理情報が、長期持続する地形や環境をあつかい、そ

解く中東の歴史と地域



王家の谷（エジプト、ルクソール）から臨むナイル峡谷（撮影／熊倉和歌子）

の下で展開される人々の営みをも見るための媒体となることが示される。吉村は、中近世カイロの給水施設の建設に着目することでカイロの都市としての発展を追う。時代別の給水施設の分布図は、人々の居住・生活空間が拡大するばかりでなく、都市が発展していく過程をも映し出す。三沢は、近代にイスラム世界を訪れた日本人の足跡をGISを用いて復元し、当時の人や物の往来をグローバル・スケールで可視化しようとする展望を示す。また、GISを利用した研究がグローバル・ヒストリー研究をも推し進めることになることを指摘する。新井は、南アラビアのハドラマウト地方に分布する聖者廟研究を事例に、GIS利用の有用性について説明すると同

時に、GISの進展によってフィールド調査の必要がなくなることはなく、むしろフィールドでの経験が必要になるというパラドックスを提示する。

日本の中東イスラム史研究は、「現場主義」を特色として進展してきた。今後、フィールドで培われた現場感覚とGISの融合が、歴史研究に何をもたらすのか、是非本特集をご覧ください。

本特集は、フィールドネット・ワークショップ「地理情報から読み解く歴史：イスラム史におけるGISの活用」（AA研フィールドサイエンス研究企画センター主催、2019年3月）および、公益財団法人鹿島学術振興財団研究助成金研究課題「地形図から読み解く歴史：エジプトとハドラマウト（イエメン）の比較研究」（代表：新井和広）の成果の一部である。